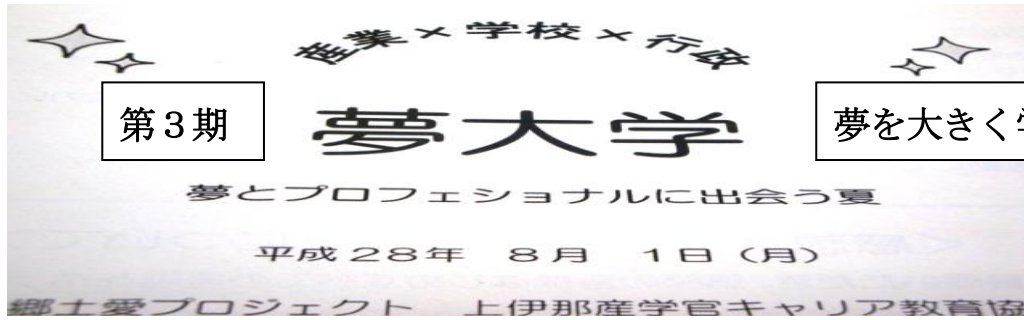


上伊那産学官連携キャリア教育「郷土愛プロジェクト」第3期 実施報告



**入学式** 夢大学入学オリエンテーション 於：駒ヶ根市役所



進行  
傳田智子氏・田畑和輝氏



「参加55名の皆様方、  
ようこそ、夢大学へ！」  
最初に「上伊那郡南部（伊南地域）を  
中心にもつくり産業の歴史と現在」を  
駒ヶ根市役所商工振興課の大槻友基さん  
から戦前、戦中、戦後の様子の説明をお聞きしました。

**1時間目** 経営学「人とふるさとを大切にする経営講義と企業見学」於：ナパック（株）



教授：鈴木 明 取締役相談役  
社員の皆様



『創業の理念、人材育成への思い』を  
お聞きしました。



ナパック（株）は鈴木鉄工所からスタートし、粉末冶金技術（粉末で成形し焼結金属部品製造）を用いモーターの含油軸受製造から、小型から中型にいたる精密部品の製造に発展させ「粉」を基盤とした機能部品の製造販売に力を入れており、さらなる伸展を図っていることがわかりました。

その経営理念は「良い仲間、良い考え、良い仕事」で「21世紀は粉の時代」をキーワードに粉に関する研究開発を行っているというこ

とで、講話を聞いた技術・家庭科教諭は「金属の成形と言えば、旋盤やヤスリ・弓ノコで削ったり切断したり、加熱鍛造という概念があったが、粉末冶金で部品成型するという技術に驚いた。さらに粉末冶金は省資源・省エネルギー工法で、製品を通じても環境に貢献しており創業以来、研究開発を続け、未来に向かって努力している姿勢と技術力に感動した」「多くの人々と交わり、支えられ、助けられて今日があるという考え方が素晴らしい」との感想を述べていました。

## 2時間目 モノづくり学（選択制） ものづくり現場見学

- ①久保田染織工業(株)「伝統工芸品・伊那紬(着物)ができるまで」～信州の老舗(県表彰の百年企業)の現場体験～ 教授：久保田治秀 社長、久保田貴之 専務



明治43年創業。現在、伊那紬の伝統を守る唯一の工房。最大の特徴は糸づくりから染め、機織りまで一貫していること。目的によって糸の組み合わせや撚(よ)りを工夫することで独特な色合いとそれぞれの個性を出している様子を各工程を見学し、説明していただきました。女性教諭は「糸づくり・染め・整経・手織り等すべての工程で、丁寧で根気が必要な職人気質による作業が行われていて、伊那紬の価値の高さがよくわかりました。いつかとは、私にとって憧れの伊那紬が末永く息づいていくことを願っています」と感想をのべていました

- ②駒ヶ根市役所産業部観光推進課「農工商連携と駒ヶ根ブランドを目指してゴマの特産化に向けた取組」(信州駒ヶ根ごまプロジェクト) 教授：春日 隆志 主査

### ・駒ヶ根を「ごま」のまちに！

信州・駒ヶ根市では、農業・商業・工業が連携し、「ごま」の地域ブランド化を推進しています。駒ヶ根ごまは、農薬不使用で栽培され、安心安全で、色よく、香り良く、風味豊かで、国産品に対する需要が増大している。駒ヶ根で栽培しているごまは「黒ごま」。

### ・驚きの「ごま」パワー！

ごまは栄養価が高く、抗酸化作用のあるごま特性の「ゴマリグナン」が含まれており、生活習慣病やガンの予防、美肌効果、二日酔い防止、ダイエット効果など注目されている食材。

### ・希少価値が高い！

日本に流通しているごまの99.9%が外国からの輸入に頼っている状況で、国産ごまの生産量は、わずか0.1%程度。その中での、駒ヶ根のごまは希少価値が高いところにくいこむ余地があります。栽培研究をすすめる一方、続々商品化されバラエティー豊かなオリジナルごま商品が続々登場します。

「ごまが新しい駒ヶ根市の地域ブランドとして産学官で根付く努力をされていてすごいね」との感想が多く寄せられました。

## お昼 暮らし学 オヒサマの森

カフェ&バル「チェレステ」にて

カフェランチ ～人とのつながりを大切に～



この宮田村のオヒサマの森は「地域の生活を支えます『わが家』」と呼ばれ、

- ・生活支援として・・・カフェ&バル「チェレステ」、配食・お弁当「いこいさん」
- ・介護サービスとして・・・宅幼老所「わが家」、訪問介護「わが家」、宅幼老所「あずま家」
- ・有料老人ホームとして・・・住まい処「よろず家」、有料老人ホーム「メゾン河原町」

の集合体で「365日・24時間、いつでも安心、地域を支えます。私たちは、この村のよろずやでありたい」と各施設を見学しながら創業の理念をお聞きしました。「こんな多岐にわたる分野の仕事を起業していてすごいね」と語り合いながら、おいしく昼食をいただきました。

### 3時間目 地域学+人間学 長野県南信工科短期大学校

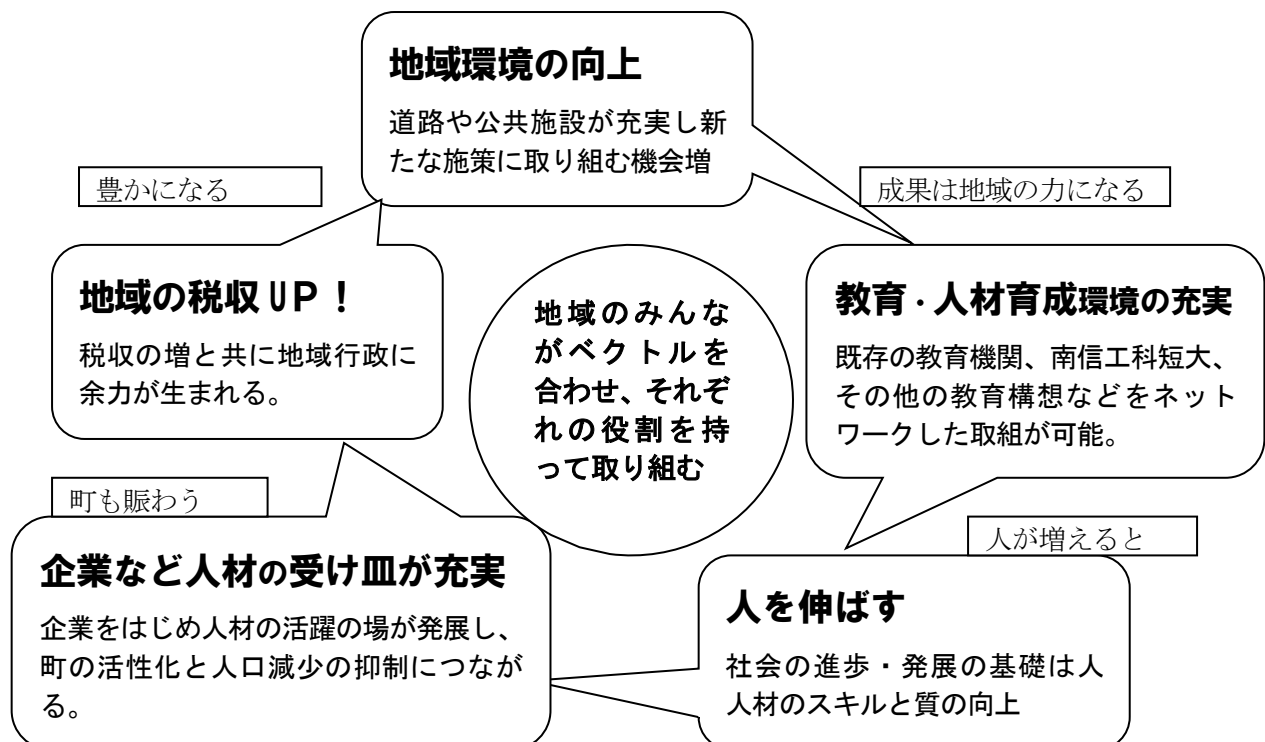
#### ①最新のモノづくり研究施設を見学

教授：伊藤 憲明氏（南信工科短大振興会事務局）・南信工科短大の先生方



これからの長野県の産業を支え「ものづくりのスペシャリスト」を育成する

### 地域の人材が、地域で学び、地域で活躍する風土をつくる人材育成の輪



長野県南信工科短期大学校は、産業技術革新が急速に進む時代のニーズにこたえ、この環境変化に柔軟に対応できる知識と技術・技能を備えた人材の育成を目指していることを裏付ける学科

が準備され、校内には最新鋭の施設設備が配置されていることに見学者は目を見はっていました。



地元スイーツ〈菓子庵 石川〉

教授：石川信頼 社長・石川雄也 専務

の「スイーツ人生のプレゼン」をお聞きする。

②みんなで一日を振り返り、地域や教育について考えました。(詳細は後述の感想文で)



修了式

お礼の言葉

上伊那技術・家庭科教育研究会長  
田口直実教諭

「昨年は生徒中心の夢大学の企画で大変盛り上がりしました。今回は私たち教員を含めた大人のために、地元企業の見学や体験ができて非常にありがたかった。今までも技術・家庭科教育研究会として夏季研修で企業の体験・見学研修は行っていましたが、産業界・学校・行政が一体となって上伊那の範囲で行えたことは、とても意義深く私たちもとても勉強になりました。ここで学んだことで子どもたちに広める質が高まったと思います。それは単なる企業紹介でなく、その企業に息づく創業時からの企業理念や時代と共に進化し歴史を積み重ねた上に、今があり、また未来を目指している企業が上伊那には多くある事を実際に自分の目で見て体感したからです。これをぜひ子供たちに熱く知らせたい。今後の進路学習に大きな影響を与えることになると思います。これを機会に、日々の授業の中で産学官の連携ができればありがたいなと思います。今日は貴重な体験をありがとうございました。」

## 今回の夢大学に参加しての感想

### ～見学者及びスタッフの皆様より～

- ・普段、企業、行政の取組、経営者の思いに触れる機会が少ないので、直接お聞きできてよかったです。また学校の先生がどのような思いでキャリア教育に取り組んでいるか聞いて良かったです。グループディスカッションでも「地域資源や人の情報をどこで得れば良いか分からない」という先生方の声がいくつかあり、自分のすべきことが見えました。ナパックさん、わが家さん、石川さんのお話は特に心打たれました。一人ひとりが幸せに人らしく生きるために社会を変えていきたいと思いました。
- ・郷土の産業史(駒ヶ根市の大槻さん～ナパック鈴木相談役)は、特に技術家庭科の先生方(技術・家庭科の在り方を悩まれている)には大変参考になったと思います。もっと企業のことを知りたい、という先生方の声が多くありました。地元企業の見学は、時間や回数をもっと増やしても良いと思います。

### ～インターンシップの大学生より～

- ・夢大学では、学生を参加者にするのではなく、先生方等を対象にするという発想が非常に興味深く、参考になりました。地域の子供たちに教えるという立場の先生方が、地域を支えて下さっている企業を知ることによってそれを生徒に伝えることが出来るからです。先生方からの方が授業を通じてより多くの学生に伝えることができるので、続けていくことには大きな意味があると思います。
- ・夢大学では、産学官が連携することで成し得る地域づくりの可能性を感じました。それぞれの立場とスタイルがあり、互いの考えや価値観を共有するのが時には難しく、思うように進まないことも多くあると思います。ですが、故郷や今住んでいる地域のため、また次世代の子供たちのためと立場は違うけれど、皆さんが同じ熱い思いを持っていると感じました。こういった産学官の交流を行っている地域は、ゼミナールの地域調査でも聞いたことがなかったので、自分の故郷の地域づくりへの取組にとっても誇りを持ってました。こういった取組をして、少しずつでも上伊那を思う気持ちの輪が地域の皆さんにも広がっていけば、本当の意味で地域一体型の地域づくりが実現でき、自分たちの力で未来をつくっていけると感じました。また、上伊那の強みは、つながりであると感じました。このつながりは、上伊那だからこそできること、そう言い切って自慢できる素晴らしいものだと思います。

### ～教職員より～

- ・学校現場の世界から、別の世界を見させていただき、たいへん刺激を受けました。地元のそれぞれの立場で活躍されている様子やその方の生き様に感銘を受けました。「先のことを考えて行動する」という姿勢が共通していて、日々受け身の自分にとって自身を見つめる機会になりました。
- ・有意義な時間を過ごさせていただきありがとうございました。どの教授のお話からも自分が行っていることやこれまでやってきたことに対する熱い思いを感じることができました。地域を愛し、地域を大切にすることを自分の姿を通して子どもたちに伝えていきたいと改めて思いました。
- ・教員等対象の夢大学ということで、講師の方も受講者も学びの焦点が絞られているように思いました。企業見学という要素よりも、自分は明日からの学校生活にどう生かしていくかを考えながら参加させていただくことができ、ありがたかったです。1日通して、郷土愛を持って自分たちの土地の持つ良さを外に広げ、今私たちが現場で接している子どもたちの未来を開いて下さっている地元の熱い思いに触れ刺激を受けました。
- ・地元企業さん、各方面のプロフェッショナルで活躍しておられる方々に出会うことができ、大変勉強になりました。知らないということは愚かだと思いました。ぜひ今回のような企画で学校から飛び出して体験してみたいです。私自身上伊那を見つめ直し、さらに好きになりました。
- ・各企業の取組が素晴らしかった。日本はこのような中小企業に支えられているのだと思った。大企業ばかりもてはやされている今の時代、子どもたちにも地元の魅力のある会社があることを伝えたい。
- ・教員として歩みだけでは知りえないことや、地域のこれからのことが分かり大変有意義な時間となりました。どの講師の方も分かりやすく、そして熱意をもってお話ししてくださり、地域や仕事や人を愛し、大切に生きて来られたこと（生き様）が伝わってきました。貴重な体験をありがとうございました。
- ・教職員にも子供にも、経営者や働く方々の思いやその姿に触れる機会が多くあると、地域活性化につながると思います。このような機会は子どもたちにとって学習の見通し（なぜ学ぶのか）を持って、願いや夢をより具体的に持てるようになると思います。
- ・実におもしろい。伊那谷はおもしろい。郷土愛プロジェクトはおもしろい、スゴい。向山会長はじめ産業界の皆さん、南信工科短大はよくぞ作られた。本当に世の中変わるんですね。ドッ

グイヤーで70年周期が10年単位でおこっちゃうわけですね。今、僕たちがどう生きるかで未来が変わる。その未来は真近にある。自分の責任で生きた今日がちゃんと自分のものになる。子どもたちだけのためじゃないんだなという気がしてきました。

- ・ナパック株式会社鈴木明様のお話から人を大切にする心を改めて考えさせられました。雇用主とすれば人件費が一番最初に削りやすい部分だと思えます。しかし、「一回雇ったら最後まで」という、人を大切にされた考え方を今担当している生徒たちにもその心で接していきたいと感じました。

### ～今後に向けたアイデアや意見～

- ・毎年機会を提供いただきまして、ぜひ今後も継続していただけると嬉しいです。今回は「ものづくり」が一つのテーマだったので技術・家庭科の先生方が主体だったかと思いますが、可能であれば（中学ならば）次年度職場体験学習を中心となって進める立場の人（おそらく1学年所属の人？）が参加すると、上伊那の産業のこともわかっていいのかなと感じました。もちろん限定する必要はないのですが。
- ・7月最終週～8月第一週は、教員の研修や夏期合宿と重なるので、8月第2週に設定していただけるとありがたいです。（参加する教員の幅が限られてしまうので）難しいかもしれませんが、見学場所での体験・実技などをさせていただけるとありがたいです。昼食はもう少しゆっくりできると助かります。
- ・昨年行われた子どもたちに向けた夢大学も大切にして行きたいなあと思います。できれば夏休み中に子供向け、教員向けを。（その他の時期でも良いが）
- ・どのように進化していくか。深化、新化、真化、今後の展開が楽しみです。郷土愛プロジェクトの考え方をどれだけスピーディーに上伊那のすべての人が共有できるかというところがポイントになるかと思えます。ケーブルテレビや長野日報などのメディアなどで開花的に広報活動ができるといいと思います。
- ・IoTが進むと今ある仕事がなくなり就職先が少なくなる？という不安は正直ショックでした。当社をはじめ多くの伊那谷の企業は安易に海外進出をせずに、この地での雇用を守ることを企業使命としています。IoTが進んでも、無人でコンピュータだけの職場ばかりをつくる企業はこの地に多くないと信じています。それを、もっとわかってもらわないと「郷土愛」もおぼつかないと思いました。
- ・今回駒ヶ根市を中心に実施され、地元企業として市内の先生方に是非見ていただきたいことを強く感じました。先生方の中にもそのニーズが強くあるように感じました。上伊那経営者協会に大きな力をいただいて進めているPJではありますが、足元を固めることも地元の子どもたちにとって大切なことであるように感じました。発達段階に応じてどこに視点を置いて行くべきか、PJ参加団体のニーズ・課題をあわせて考えていく必要があるように感じています。

産学官での第3期夢大学が多くのスタッフの尽力のおかげをもちまして、今年も行われ上伊那地域の産業界の現場を参観させていただき、課題も含め多くのことを学ばせていただきました。ここで学んだことをそれぞれの立場で多くの子どもたちに伝え、次世代育成や地域づくりに生かしていただければと考えます。